

# No. 1150

## 文化財を守る

— 京都・仁和寺 —

千年の歴史を誇る京都はわが国の文化財の宝庫であり、全国の約5分の1の国宝、重要文化財がある。

中でも、“御室のさくら”で知られる仁和寺には数多くの文化財がある。これまでに貴重な文化財が、度々、焼失の憂き目に会っている。

仁和寺では自動火災報知器をはじめ、送水ポンプ、消火栓など防災施設を整え、大僧正が指揮を取る、寺独自の消防団を組織している。

1月25日、京都市消防局の指導を受けて消防訓練が行われた。

火災発生のお知らせに、日頃の訓練をふるに發揮、消防車の到着までに本堂に安置されている仏像などを手際よく運び出す。

いつもとは勝手のちがう消火作業、それでも本職、顔負けの活躍ぶり。国民の財産である貴重な文化財を火災から守り、次の世代に引き継いで行こうと、仁和寺の私設消防団は懸命である。

## 受験シーズン

あこがれの大学、今年もまた受験シーズンがやって来た。本屋さんにも受験コーナーがもうけられ、真剣な表情の受験生でいっぱい。1万5千人の浪人が集まる都内のある予備校では入試直前ゼミが開かれ、最後の追い込みに余念がない。

1日を26時間と思って頑張れというのか、ある予備校では26時間用の時計を作って受験生を激励。東京・雑司ヶ谷霊園にある鬼あざみ清吉の墓、受験は“運”という訳でもあるまいが、江戸の大泥棒、鬼あざみが逃げて逃げて逃げ回った“運のよき”にあやかろうと言うのか受験生やその母親たちが押しかける。学問の神様菅原道真をまつる東京・湯島天神。苦しい時の神だのみ、参拝者のほとんどが受験生とその家族。志望校を書き込んだ絵馬は鈴なり、天神様もくたびれそうだ。早春まで続く受験シーズン、何はともあれ無事に受験地獄を乗り切ってほしいものだ。